

上原 彩子 ピアノリサイタル

1 部	2 部
前奏曲集 第1巻 ドビュッシー	ウィーンの謝肉祭の道化 Op.26 シューマン
喜びの島 ドビュッシー	愛の夢 第3番 リスト
	巡礼の年 第2年「イタリア」より 第7番 “ダンテを読んで〜ソナタ風幻想曲” リスト

秋

2018 四季コンサート 35周年記念

2018年10月5日(金) 18:00開場 18:45開演
会場:アクトシティ浜松中ホール
主催:浜松音楽友の会

プロフィール

3歳児のコースからヤマハ音楽教室に、1990年よりヤマハマスタークラスに在籍。ヴェラ・ゴルノスタエヴァ、江口文子、浦壁信二の各氏に師事。第3回エトリンゲン国際青少年ピアノコンクールA部門第1位を始め多くのコンクールで入賞を果たす。2000年3月、第5回浜松国際ピアノアカデミーに参加、ピアノアカデミーコンクールでは、アカデミー史上、初のグランプリを受賞。同年7月、シドニー国際ピアノコンクールにて第2位及びピープルズ・チョイス賞、オーストラリア人作品賞、室内楽賞、ショパン賞等各賞を受賞。また同年11月、第4回浜松国際ピアノコンクールにて第2位、及び日本人作品最優秀演奏賞を受賞。2002年6月には、第12回チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門において、女性としてまた、日本人として史上初めての第1位を獲得。

第18回新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞受賞。

これまでに国内外にて演奏活動を行い、2004年12月にはデュトワ指揮NHK交響楽団と共演し、2004年度ベスト・ソリストに選ばれた。CDは日本人ピアニストとして初めて、EMIクラシックスと契約し、チャイコフスキーの作品を収めた「グランド・ソナタ」、フリーデック・デ・ブルゴス指揮のロンドン交響楽団との共演によるチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番及びプロコフィエフのソナタ7番等を収めた「プロコフィエフ作品集」がワールドワイドで発売された他、2014年にはキングレコードに移籍、「上原彩子のくるみ割り人形」「ラフマニノフ13の前奏曲」がリリースされている。

2006年1月10日には「日本におけるロシア文化フェスティバル2006」オープニング・ガラコンサートでゲルギエフ指揮マリンスキー管弦楽団と2007年1月にはベルリン・フィルハール管弦楽団と共演、また、2008年9-10月にはクリスチャン・ヤルヴィ指揮ウィーン・トーンキュンストラ管弦楽団とのオーストリア及び日本ツアーを行ない、2017年3月には、ベルリン及び日本国内4都市において、エリアフ・インバル指揮ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団と共演、高い評価を受けた。

第10回浜松国際ピアノコンクール開催記念イベント

上原 彩子 ピアノリサイタル



AYAKO UEHARA PIANO RECITAL

曲目解説

堀内 彩虹

●ドビュッシー／前奏曲集 第1巻

前奏曲集の第1巻は12曲からなる曲集で、それぞれの曲に標題が付けられている。ドビュッシー自身はこの標題をイメージ喚起のきっかけと捉え、楽譜の片隅に小さく書き込んだ。

第1曲「デルフィの舞姫たち」ギリシャの古都のアポロン神殿において神に捧げた踊りをイメージしている。

第2曲「帆」全音音階を用いて波や風の様子が巧みに表現される。

第3曲「野を渡る風」野にはたえず風が吹いている。草木がときおり強い突風に煽られながらも、終始軽やかで心地よい風が吹き通る様子を描く。

第4曲「音と香りは夕暮れの大気に漂う」ボードレールの詩から着想を得たもの。

第5曲「アナカプリの丘」アナカプリとは、イタリアにある島の名前。ドビュッシーがイタリアを旅した際の印象を描いたとされる曲。

第6曲「雪の上の足跡」冒頭から独特な拍感を引き起こす、ひきずるようなリズムが現れる。

第7曲「西風の見たもの」フランスに吹く強い西風を表現。

第8曲「亜麻色の髪の乙女」ルコント・ド・リルの詩〈亜麻色の髪の乙女〉に現れる愛を歌う美しい少女をイメージして作曲された。

第9曲「途絶えたセレナード」ギターを爪弾く音と情熱的なパッセージとがスペインの情景を思わせる。

第10曲「沈める寺」ブルターニュ地方の伝説に基づいている。海深くに沈んだ寺が再び海上に浮かび上がるという幻想的な作品。

第11曲「パックの踊り」シェイクスピア『夏の夜の夢』に登場する妖精パックが軽妙なリズムの上に踊る。

第12曲「ミントレル」標題の通り、ミントレルショーのダンス音楽の影響がみられる。

●ドビュッシー／喜びの島

ヴァトーの絵画《シテール島への船出》から着想を得たとされる作品で、爆発する愛の喜びを表現するためにあらゆる技巧が駆使されている。シテール島には、愛と性の神アプロディテが生まれたこの島を恋人たちがこぞって巡礼に訪れるという伝説がある。作曲時、ドビュッシーもまた恋人とともにある島に渡っていた。全体が音の多様な色彩と躍動するリズムに満ちた様は、聴く者に恋の歓喜と興奮をめぐる想像力をかきたてる。

●シューマン／ウィーンの謝肉祭の道化 Op.26

シューマンは、訪問先のウィーンの地で体験した謝肉祭の様子を音楽にしようと、ウィーン滞在中からさっそく作曲に着手し始めた。まさに今みたばかりの色鮮やかな光景と活気に満ちた喧騒とを絵画のように描いている。シューマン自身がこの作品を「ロマンティックなショーピース」と呼んだように、5曲「アレグロ」「ロマンス」「スケルツィーノ」「インテルメッツォ」「フィナーレ」それぞれに日の前で繰り広げられる祭りの様相を表すような次々に変化する音楽が表現されており、まさに並べて「魅せる」ための作品集といえる。また、作品全体を通して形式が意識され、ソナタ形式の特徴がみられる点には、シューマンが尊敬したウィーン古典派への思いが現れているようにも感じられる。

●リスト／愛の夢 第3番

《愛の夢》はバラフレーズを好んだリストが、歌曲を編曲した作品。第3曲はフライリヒャートの詩「おお、愛し得る限り愛せ」に基づくもので、恋愛感情ではなく、人間間の誠実で深淵な愛を歌う。柔らかな音楽の中に、静かながら心に残る旋律が浮かび上がる。途中で夢が醒めぬように慎重に音を紡ぎながら、次第に音楽が上昇し、最後は優しく問いかけるようにして締めくくられる。

●リスト／巡礼の年 第2年「イタリア」より 第7番「ダンテを読んで〜ソナタ風幻想曲」

《巡礼の年》作品には、リストの超絶技巧的華々しさとはまた別の、自然や人間的叡智の静かな叙情性が備わっている。リストの人生経験と連動するように、第1年〈スイス〉では自然の情景がテーマとなり、第2年〈イタリア〉は芸術や文芸作品、そして20年以上あけて発表された〈第3年〉は宗教的信仰心がベースとなっている。〈イタリア〉の最後に位置する第7番は、ダンテ『神曲』を読んで着想を得た作品で、ダンテ「地獄篇」を思わせるような増4度の悪魔的音程が印象的。全体に激情的な表現が多用されているが、その中にとときおり静謐な美しさが垣間みえる。

アンコール曲 1. シューマン作曲「トロイメライ」

2. ラフマニノフ作曲「前奏曲 op. 23-2」